第三号

一寺言問 わいわい憲章(案)

「一寺言問の防災まちづくりを考える『わいわい会』」の活動の指針として

一、設立趣旨

一寺言問地区は、下町の風情を残すまち、歴史を感じさせるまちです。一方で、地震や火災など災害の危険を抱えるまちでもあります。この愛すべき一寺言問のまちを、我々地元に暮らす人たちが知恵と力を出しあって、より安心して暮らせるまちに、うるおいのあるまちにしていかなければならないと考えます。そのために、我々地元に暮らす人たちの創意と熱意を結集し、まちづくりを推進する話し合いと行動の中心として『一寺言問の防災まちづくりを考える「わいわい会」』(略称「わいわい会」)を設けます。

二、「わいわい会」とは

問1 「わいわい会」ではどのようなまちづくりを考えていくのか。大規模な再開発や区画整理を考えていくのか

答 白髭防災拠点のような大規模な再開発や区画整理は、地元の人たちが強く望まない限り、区が考えてもしかたのないことです。このまちは防災上問題のあるところもありますが、そこには下町の良さもあります。その良さを活かしながら、災害に強いまちをつくっていきたい、と区は考えております。

問2 会では具体的にどんな活動をおこなうのか

答 「わいわい会」では、「一寺言問のまちの危険

問3 会でまとまった案が実

芝居「おお！まちづくり」から～　不燃促進課／馬場課長(左)　開発促進室／中島副幹事(右)

一寺言問の防災まちづくりいよいよスタート

地元のまちづくり組織「わいわい会」結成される

一寺言問の皆さん。いよいよ地元・一寺言問の防災まちづくりがスタートします。先日の一〇月二四日に、――一寺言問の防災まちづくりを考える『わいわい会』――(略称「わいわい会」)が結成されました。

一寺言問地区は、下町の風情を残すまち、歴史を感じさせるまちです。一方で地震や火災など災害の危険を抱えるまちでもあります。この愛すべき一寺言問のまちを、地元の人たちが中心となって、区や専門家も混じえ、わいわいがやがや話しあいながら、よりすばらしいまちにしていくための場として、また組織として「わいわい会」が結成されました。

この防災まちづくり瓦版も「わいわい会」が編集・発行する冊子になりました。どうぞよろしくお願いいたします。

では、「わいわい会」について、懇談会や結成式、その後の会合を通して、地元の人たちや区が話しあった内容を問答形式でお知らせします。

安心とうるおいの下町「川の手」をめざして――

防災まちづくり瓦版

発行／一寺言問の防災まちづくりを考える「わいわい会」

昭和60年12月1日

(い)「わいわい会」には、一寺言問に住んでいる人や働いている人など、一寺言問に関わりのある人なら誰でも参加できます。

(ろ)「わいわい会」では、防災まちづくりを推進するために、三、で記すような諸活動を行いたいと考えています。活動にあたっては、地元の人々をはじめ、諸団体との協調、協力をもって行います。

(は)「わいわい会」の活動を盛り上げていくために、次回の活動予定や運営方針などを協議する、「世話人」（うち、若干名の地元の事務局員）を選びます。

(に)墨田区と専門家は「わいわい会」の活動を協力支援します。「わいわい会」の事務局は以下に設置します。

- 地元の事務局員　若干名
- 墨田区都市整備部開発促進室
  池田成美、村田里美
  TEL（六二六）三一五一
  （内線六五五）
- マヌ都市建築研究所
  山本俊哉、鈴木隆雄
  田中英世、
  TEL（八一六）四〇三七

三、「わいわい会」の活動

「わいわい会」は、一寺言問地区を安心して暮らせるまち、うるおいのあるまちにしていくために必要な活動を行います。たとえば、次のような活動が考えられますが、参加者の創意工夫によって、もっと活動の幅を拡げていきたいと考えています。

(い)まちを歩き、住民の目からまちの危険なところや大切にしたいところを再発見し、語りあう。

(ろ)まちづくりのための小さな提案から大きな提案まで、また環境づくりから催物まで、各種の提案を検討し、実施していく。

(は)「わいわい会」の活動を報告し、まちづくりをすすめていくために、「一寺言問・防災まちづくり瓦版」を編集・発行する。

四、最後に・・・

この憲章は、「わいわい会」の活動指針となるものです。

一般の会規約と異なり、会員の資格や会活動を細かく規定し、拘束するものではありません。一寺言問地区を愛し、まちづくりを推進したいと考えている我々地元に暮らす人たちの創意と熱意を十分に発揮しうるための憲章です。従って、話し合いによる改正の余地は常に残されています。

を住民の目で再発見して語りあう催物を開催したり、より多くの人たちにまちづくりに参加してもらう楽しい企画を催しながら、具体的なまちづくりの提案をまとめていきたいと思います。

例えば、この瓦版を編集・発行するのも「わいわい会」の活動です。まだ実の段階ですが、この一寺言問のまちをみんなで探検してみたり、夏休みにこの一寺言問でキャンプを張って、炊き出しの訓練をしてみたり。そんなことをしながら、「あそこの空地を区で買ってもらおうか」「その空地を〝元気のでる広場〟にしよう」と提案をまとめていくのです。

問6 活動のために必要な費用は誰が負担するのか

答 区が活動費を援助します。瓦版の発行費、イベントの会場費、会合のお茶菓子代などは区が援助します。

なぜ区がお金を出しているかというと、区はこの地区を地元主導の防災まちづくりのモデル地区に指定したからです。この一寺言問でうまくいけば、他の地区にも広めたいと考えているから特別にお金がでるのです。

なお、世話人の人たちには無報酬で活動してもらっています。

問7 誰でも「わいわい会」に参加できるのか

答 一寺言問に住んでいる人、働いている人なら誰でも参加できます。特に会員の規定はありませんから自由に参加できます。

「わいわい会」では、これから楽しい企画をみなさんにお届けいたします。百聞は一見にしかず。是非参加して私達といっしょにまちづくりについて考えましょう。

問5 「マヌ都市…」が事務局にはいっている理由

答 私達のまちづくりに、顧問弁護士あるいは医者をかかえているのだと考えてもらっていいでしょう。「マヌ都市建築研究所」は、このまちづくりを技術的に援助するために、区が五～六社の中から様々な試験をして選んだ都市計画コンサルタントです。今後、地元の人に会う機会が多くなるので、わいわい憲章(案)に名前を載せました。

▼ マヌ都市建築研究所

昭和三九年にmanu都市建築研究所として設立。三年前にmanuをカタカナの〝マヌ〟に変更。現在所員は、一〇名。業務内容は、建築の設計から、都市に関する計画・研究・まちづくりまでのコンサルタント。いわゆる建設業ではない。仕事の八割は区役所や公団、建設省などの公共団体の委託業務。ちなみにマヌ（manu）は「人間（man）」という意味。人間らしい建築づくり、まちづくりをしたい思いをこめている。事務所は、文京区の本郷にある。

問4 会の活動予定や運営方針は誰が決めるのか

答 世話人会で協議していき、みなさんに提示します。世話人会は現在のところ、町会から推選されたメンバーと個人参加の有志の一四名によって構成されております。一一月六日の準備会を経て、一二日に正式に発足しました。とりあえずこのメンバー（裏面に紹介）でスタートしましたが、意欲のある人はぜひ世話人になって下さい。若い人、ちょっぴり時間的に余裕のある人を求めています。

「わいわい会」結成式の模様

問3 「わいわい会」の議論を単なる言葉の遊びに終わらせたくない、何らかの形で成果を実らせたいと思います。

答 区もこの一寺言問のまちづくりに、開発促進室と不燃促進課、防災課を中心として、意欲的に取り組んでいます。他の関係各課にも働きかけ、たて割りを超えた取り組み方も考えていますし、東京都も協力的です。まちづくりに必要な用地費や整備費も予算をとりながら、できるだけ柔軟に対応していこうと考えています。

ですから、地元の知恵と力を集め、私達「わいわい会」を大きくして、ぜひ会でまとまった提案を実現させましょう。

防災まちづくり懇談会

そもそも「わいわい会」は一〇月八、九、一一日の三日間にわたっておこなわれた「防災まちづくり懇談会」（三日間で延一四五名参加）をきっかけにして、地元の人たちと区とが話し合い、発足したものです。

この懇談会、ちょっぴり変わっていました。といいますのも、劇団一言座というからどんな人たちが来るのかなあと思ったら、墨田区役所の人たちで、これからおこなおうとするまちづくりに対する考えを芝居で説明したのです。

せりふをまちがえたり、動きがぎこちなかったり・・・。そんなシロウト劇でしたが、言葉でとうとうと説明されるより、何を伝えようとしているのがよくわかり、また区のこのまちづくりに対する熱意も強く感じられました。（若木）

地元在住の宝井琴梅師匠

プログラム

映画「みんなで守ろうわが町墨田」

講談「講釈師のみた郷里」　宝井琴梅氏　（10/9・10/11）

芝居「おお！まちづくり」　劇団一言座・旗上げ公演

第一幕　今までのまちづくり
- 一、得体の知れない防戦
- 二、ああ！まちづくり
- 三、やぶの中のすれちがい

第二幕　これからのまちづくり
- 一、下町の街角から
- 二、語りかける
- 三、まちを語りコトを起こす人々の輪の中で
- 四、語り継ぐ墨田まちづくり物語

会場座談会「一寺言間のまちづくりを語りあう」

マイクで参加を呼びかける渡辺美菜子さん。

④ ⑤ ② ① ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

⑤ ①老若男女、参加者も楽しそう（寺島会所）

⑥ ②会場からの質問に答えて…（滝崎会館）

⑦ ③琴梅さんの講談は最高！（百花会館）

○ ④あいさつにたつ関発促進室の浅川参事

⑤～⑦ 芝居「おお！まちづくり」から

一言

なかなか現実をみた芝居だった。

「これまでのまちづくり」は、行政が先に立って区画整理をするという出だしから始まって、道路が通ればいい地主は賛成、そこに道路を通らされる人は反対。これは当り前のこと。このまちのように権利の錯綜しているところでは、行政サイドで絵をかいた計画がうまくいかないことを、あの芝居が完璧に語っている。

これからのまちづくりでは、「わいわい会」のような手づくりのまちづくり推進団体をつくることは正解だと思う。地元のことは地元の人しかわからないのだから・・・。実際にまちづくりをすすめていくと、それこそ利害が錯綜していろいろと障害にぶつかる。その辺を役所の方に調整してもらったり、新しいルールをつくってもらいたい。

問題は、今後のまちづくり懇談の雰囲気のしかただと思う。よその地区の例を参考にしながら、区に財政上の援助をしてもらって、みんなが参加できる会をつくる。芝居にでてきたような楽しい会のように・・・。先ほどの琴梅さんの話にありましたように、このまちにはすばらしいものがたくさんある。それらを発掘して、このまちを見直すことからはじめてもいいのではないか。（佐藤）

一言座・一同紹介

墨田区

浅川敏克
中島雄幸
池田成美
村田里美
馬場玲子
中山政二
渡辺美菜子
宮藤敏郎

東京都

工藤ひろ子
松村素子
坂上信雄
鈴木繁晨

文部省青少年教育局

田中英世
鈴木隆雄
板谷福二郎
古原満里子
藤沢毅
泉田中
山本俊哉
古口良一

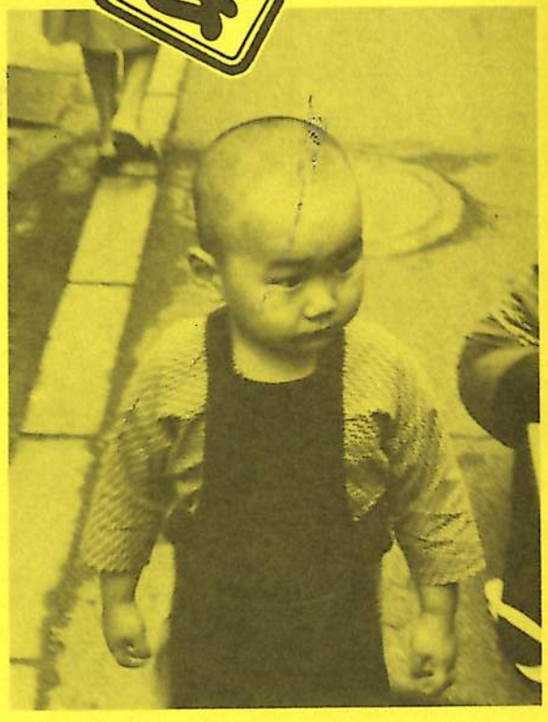
わいわい会 世話人

東向一 明間藤子
東向三 天沼勇一
東向三 池田泰一郎
向島五 小倉利夫
東向三 小野百幸
東向三 加納勲光
東向一 斉藤六一郎
東向一 佐京彦哉
東向三 佐原滋元
東向一 須賀健
東向一 徳永暢男
堤通一 人見源一
向島五 森口仙太郎
東向一 若木菊江

「わいわい会」の世話人はこの方々です。どうぞよろしく。（あいうえお順・11月25日現在）

＊ 東向三（東向島三丁目）、東向一（東向島一丁目）、堤通一（堤通一丁目）、向島五（向島五丁目）は居住地です。

一寺言問っ子へのメッセージ



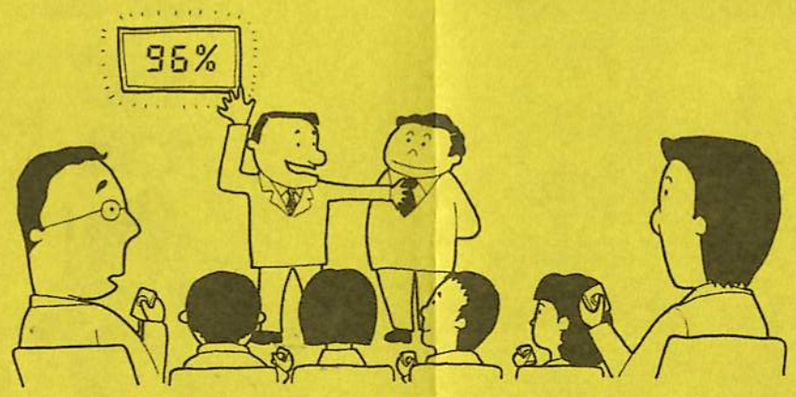
（写真：牛島の祭りから）

私が子供の頃、家の前はずうっとどぶでした。ドブの細いへりを渡り、命がけでいちじくの実をもぎ取った時の喜び。自転車の練習をしていて、自転車ごとドブに落っこった時の怖さ。今でも忘れることができません。家の前でゴザを敷いてのおままごと。ドブがあって道幅は今よりずっと狭かったのに、とても豊かな通りだったような気がします。

今、私は同じ通りで子供を育てていますが、自動車が多くてとても子供だけでは外に出せません。おもちゃも今の子ほど買ってもらいませんでしたが、自然と交わりながら成長した私の子供時代の方が幸せだったかもしれません。私のふる里の暖かさを、何らかの形で子供たちに伝えていきたいナ。（若木）

第二回わいわい会『一寺言問の五十人に聞きました』

テーマ 一寺言問という下町



一二月九日（月）
午後七時～九時
東武信用金庫本店
八階会議室

人は一寺言問を下町というけれど、下町といってもいろいろございまして。では、一寺言問はどんなまちか。クイズやアンケートに答えながら、楽しく語りあいたいなあと思います。

入場料はもちろん無料。少し早めにおこし下さい。

お問い合わせは
墨田区都市整備部開発促進室
（六二六）三一五一（四六五五）

私がまちづくりスタッフです その2

山本 俊哉

マヌ都市建築研究所の彼は、現在二六才。一言座の劇で「お役人さん」の役を本物よりそれらしく熱演。趣味はギターにサッカー。インテリ風だが気さくで、老若男女を問わず話題も豊富です。そっかしい面は「一寺言問」に対する情熱でカバーするとして、仕事はテキパキとこなすなかなかの切れ者とみました。皆さん、彼＝マヌに難問を与えて下さい。

（村田里美・記）

編集後記

○「互版の第一号と第二号に・なまず君の要石（かなめいし）探し・があるけれど『要石』とは何ですか」という質問がたくさんありましたので、お答えします。

○江戸時代、地震の元凶はなまずだと考えられていました。そのなまずが動き出さないように上から押えつけたのが「要石」。江戸時代の互版には、いろいろなまず絵と要石が描かれていたようです。

そこで、我が編集局は「要石」を地震対策をする上でとても大切なもの、それをうまく使えば地震による被害を最小限にとどめられるもの、と解釈したのです。

○一般に、「防災上の要石」というと、広い道路や不燃化された建物、大きな広場などを連想しますが、そのまちの伝統や文化を大切にしようとする人々の気持ちや、地震がいつ来てもだいじょうぶという備えも「要石」になるのではないか。これからやろうとするまちづくりのきっかけになるものは全て「要石」になるのではないか、と考えたのです。

○第一号で紹介した桜橋、寺社、料亭、縁日、祭、一寺言問、子…。第二号で紹介した防災訓練を「要石」にしたのはそんな意味からです。あなたも、まちづくりのきっかけになる「要石」を探してみませんか。

●　●　●

○さて、一寺言問の皆さん。「わいわい会」発行としての第一号、互版第三号の互版、いかがでしたか。編集局に感想をお寄せ下さい。お便りお待ちしています。

○それから、編集局に仲間が一人増えました。東向島一丁目の若木菊江さんです。編集局員、一寺言問駐在員、募集中。編集局までご連絡下さい。

わいわい会『互版編集局』
スタッフ・山本俊哉・村田里美・池田成美・若木菊江
墨田区業綱一丁目六番一号
墨田区都市整備部開発促進室内
（六二六）三一五一（四六五五）